

玉野市立学校適正規模・適正配置検討委員会 第2回会議 会議録（要旨）

■日 時 令和4年11月24日（木）15：00～17：00

■場 所 玉野市役所 大会議室

■出席者 ○委員 15人

金川 舞貴子委員長 栗林 太一郎副委員長

中島 正人委員 木津 直美委員 森 幸絵委員 大内 雄一郎委員 西宇可奈子委員

兼松 勲委員 今井 克則委員 木村 俊一委員 諏訪 祐子委員 濱松 正江委員

三浦 康男委員 浅浪 康延委員 近藤 奈々委員

○事務局 5人

玉野市教育委員会教育長 妹尾 均 教育次長 小崎 隆 教育総務課長 山内 祐樹

教育総務課課長補佐 清山 智保 学校教育課長補佐 川崎 浩一

■傍聴者 14人

1 開会

事務局：要綱第6条第2項により、委員の半数以上が出席しているので、会議として成立することを報告する。

2 議事（要綱第6条第1項に基づき、金川委員長が議長となる。）

（1）第1回会議 会議録の確認

事務局：議事録は既にホームページで公開中であり、公開に先立ち内容の確認、了承をいただいている。改めてお気づきの点があればご指摘いただきたい。（特になし）

（2）事務局からの報告

（地域説明会について）

事務局：地域説明会は、検討委員会で協議を進めるにあたり、まずは適正規模化に対する地域ごとの考えや意見を聞くことを目的に開催した。議事録とは別に作成した、質問や発言を要点ごとに集約した資料に沿って説明する。

（資料に沿って説明）

委員長：検討委員会で議論してほしいという項目がおおよそ3つあったかと思う。（1つ目は）

「適正規模・適正配置をどう考えていくか」。複式学級を解消するということが草案で出てきているが、検討委員会として、原理原則「どういう環境、規模が望ましい教育環境なのか」というあたりを、答申に向けて、次回以降詰めていこうと思う。

（2つ目は）通学距離や徒歩（とスクールバス）の境界をどう考えるかというところで、当委員会は、個別の具体的計画というよりは、基本的に押さええないといけない観点は何なのかということをしっかり出して、そのうえで事務局が具体案を検討することになる。この説明会の資料を見ても、具体的な計画まで立てるように思われている人もいるように感じられるが、原理原則を考えていく。

もう1つが、説明会やアンケートの持ち方だ。市民の方の声をいかに拾っていくのかとか、周知していくのかとかというやり方や、この検討委員会の進め方に関し

て、極力多くの方の意見を聞きつつ、あるいは少しでも玉野市の教育について関心を持つ機会になって、いい教育について考えていく機運が高まるきっかけになればと思っているが、そういった検討委員会の進め方や、その途中での説明の持ち方とについて、ご意見をいただきたいと思う。

もちろんこの3つ以外にも、答申になっていくことを念頭に、気づかれたことについてご意見をいただければと思う。

多岐にわたるジャンルなので、いろいろ言いたいこともあると思うし、前回会議では当初の意見をもらったが、今日の説明を聞いて改めて考えがこうなったとか、こういうことに気づかされたなどあれば、そういった点についてもご意見をいただきたい。

副委員長：子どもたちのよりよい教育環境のために、子どもたちの成長のためにということろを最上位にして、皆で考えていかなければならないと思っている。

自分が経験した大規模の学校では、1クラス30人ほどで5クラスあった。その学年は、主任が1人おり、担任が5人おり、副担任が1人おりということで、計7人の教員で子どもたちを見ることができる。

例えば1クラス10人であれば、1人の先生が10人を見るということで（先生1人あたりの）数は少ないが、現場でやっていて、いまの子どもたちの考えや個性は本当に多様だ。それを複数の目で、様々な角度から支援できる教員の体制というのが本当に必要と思っている。

だから、手厚いというのが、ただ人数計算ではなくて、様々な個性のある子どもに対して多様な支援ができるという面で、適正規模での教員配置が必要ではないかと、最近現場でやっていると。

先生にも個性がある。子どもたちが相談したいけれども、この先生とは合わないといった場合に、（1人の先生に対して10人であっても）なかなか相談が難しいとかいうところも一つある。

もう一点言わせてもらおうと、子どもたちは子どもたちの中の間人間関係、子どもたち同士のかかわりの中で成長をしていく。例えば、小学校6年間でクラス替えがなく、6年間同じ集団となると、人間関係が固定化してしまったり、仲のいい友達ができなかったりしたときに、逃げ場がないところはちょっと厳しいのではないかと。子どもたちは、多様な価値、考え方に触れる機会がある方が成長できるという件、そういう環境づくり（が必要）というところは、個人的には感じているところだ。

委員長：適正の規模をどう考えるのか、そこの教育的な意味であったり生活上の問題であったり、あるいは学校経営の問題、教員の問題というところでご意見をいただいた。

委員1：地域説明会が始まったとき、まずは自分の地域の中学校区のところに参加すればいいのかなと考えていた。ところが行ってみて、他学区の会場の参加者から検討委員は来ているかという発言もあって、これはできるだけたくさん聞いた方がいいなど、確かにアンケートの結果も大事だが、やはり直接自分の耳でいろんな方の意見を、生の声を聞いておいた方が良くと思い、その後、全部参加させてもらった。

PTAの中でも、意見を聞けるのであれば聞いた方がいいのではないかとかいう思いもあり、小学校、中学校の保護者の方と、人数はバラバラで完全にはできていな

いが、意見を聞く場を設けた。それから、地域の方の意見ということで、コミュニティの会長とも意見交換をさせてもらった。

この適正規模適正配置など、私は前回会議でも発言したが、学校（教育）の問題ももちろん大事だが、一方で、廃校になったときに地域に残される跡地、地域はいろいろな問題、マイナスイメージの問題を抱えてしまうので、その問題点をちゃんと解決できるようなもう一つの議論を、検討委員会なり何なりの中で、マイナスの思考で暗い話になっていくのではなくて、例えば新しい学校の形にしていったときに、玉野市全体の地域も元気が出るような、希望のある議論に持って行けたらと感じながら数か月間過ごした。

私も地元の小学校、中学校の卒業生であるので、もちろん自分の学校というのは残してほしいが、文化祭のコーラスを見ている、もう限界かなというのを感じたし、特に中学校については、急ぐ必要があるのかなと感じている。いろいろ考え方も、自分の中でも変わりながらこの数か月間過ごして、地域説明会の意見を聞かせてもらった。

委員長：地域に課題に根付いた活動ということで、委員としても、できる限りに説明の機会を持っていただいた。検討委員会の持ち方の一つのご意見とも言えるだろうし、適正規模適正配置を考えた後の地域をどう考えていくのかということで、どう答申の中に盛り込むかとかいうこと、一つの意見にもなるのではと思う。

委員2：説明会の資料を見て思ったのは、8割方の人が反対されている。小学校を維持したいという人がいて、やはり小学校を中心に地域は盛り上がっていくということ、みんな忘れていくのかなというのは凄く思って、今回の適正規模という機会が、そういうことを考えさせられたきっかけでもある。

この2～30年で、(児童生徒が)減ってくるのも目に見えて分かってきたわけで、何かそこで、市や行政とかのせいにする訳ではなくて、各個人ができることを今回の適正規模で考えて行けたらと思っている。

(適正規模化を) すぐにすぐというのはちょっと反対だ。中学校と小学校とではまた話が違ってくるが、子がいま中学校の2年生だが、部活も限られていて、ちょっと残念だなというのがあったが、統廃合によって幅が広がって。また中学校となると、いろんな人と関わる、関わらないといけない、それこそ切磋琢磨していかないといけないという意味で最初の段階であると思って、中学校に関しては統廃合に賛成の意見だ。

ただ小学校は反対している。距離が遠くなるとやはり、地域の人からも目が届かなくなって、そうすると本当に廃れていくということも容易に想像がつく。

私が住んでいる地区は正直何もない。小学校がなくなったら何の取り柄もないと言っている。県道沿いにある、地区をアピールしたような看板も、開校150周年の学校を真ん中にドンとやれば、若い世代の人たちも、ああこういう学校があるんだとか、移り住む可能性もあるのではないかと思う。ICTとかSNSとか、全国の皆さんに簡単に見てもらえるような広報手段があるので、それを年齢関係なく、みんなが率先してやるのが、今の私たち市民の、それぞれの役割でもあるし、これから行動に移さないといけないと思う。

地域の方々の熱い思いを聞くと、それぞれがその小学校に対して思い入れがあっ

て、そういった部分に関してはやはり真剣に、何気なく回答させられるよりは、本当に真剣に答えてほしいと思う。

委員3：委員2が言われたように、未来の子どもたちのために真剣に考えることが必要と私も感じている。

私は、一地区を除いてすべての説明会に出席した。その中で、周知徹底が足りないという発言が多く参加者からあったため、私は地元で意見交換会を開催した。保育園、幼稚園、小学校、中学校の全家庭にお知らせを配布し、中学校では保護者連絡用のメールも活用させてもらって周知した。説明会では「説明会が夜しかない。時間設定がおかしい」という意見もあったため、私は9時からの朝の部と、18時からの夜の部と2回開いた。朝の部の参加者は2名で、中学校保護者が1名、小学校保護者が1名。夜の部は6名の参加があり、中学校保護者が3名、小学校の保護者が2名、保育園保護者が1名だった。

7名（1名重複）という数だけ聞くとやはり少ないのかなとは思いますが、参加されない方に意見を聞くと、「時代の流れだから受け入れるしかない」「適正規模適正配置に対して賛成だからわざわざ行かない」という意見もあり、それが大多数の意見だったと想像している。

意見交換会では、適正規模適正配置に関する概要をお伝えし、朝の部では中学校の子どもたちの様子を参観する時間も取っていただいた。それから、説明会で多く出ていた質問や意見をもとに、9つほど私が質問を設定し、画用紙と付箋を準備して皆さんに自由に答えていただいた。説明会の周知については、「若い人たちに伝わりやすいようにYouTube配信をするなど、もう少し触れられる機会を作ってほしい」「自由に意見が伝えられるGoogle Formsを活用する」という意見もあった。

それから、「学校が多いと維持費がかかることはとてもよく分かる。維持していくことで、負担を子どもたちの将来に後回しにするのではないか」とか、「自分たちが受けた教育と今の教育では全く違う。保護者世代は、そこをまず知ったうえで、どのような学校づくりが大切かを考えていきたい」という発言もあった。

また、私は地区の主任児童委員も兼ねていて、そちらの会合でも、まずは適正規模適正配置について知ってほしいこと、もし何か意見があれば検討委員会に伝えることを発言した。その中で、ある地区の方から、入学予定者の半数が違う学区の小学校を選んでいる現実があることや、中学校に進学する際も隣の中学校へ進学している事実を知らされた。私はてっきり学校を残してほしいという気持ちを伝えられると思っていたら、「保護者のために早く決めてほしい」「いま保護者は先が見通せなくて悩んでいる人が多いことをぜひ伝えてほしい」と言われた。委員1も言われたように、廃墟化することは避けたいので、その後の活用方法まで含めて検討委員会で話し合っしてほしいとのことだった。

委員長：委員2が言われた8割方反対については、アンケート等の説明で裏付けが得られることかと思うが、小中で議論は分けてする必要があると思うので、今後の進め方の参考にしたいと思う。

そしてあと、真剣に答えていただくことや、議論できる機運をどう高めていくかということに関して、今の段階だと、答申が出た後（計画案に対する）パブリックコメントまで意見を拾う機会が十分でないという問題点を指摘する声もあった。

そのあたりの進め方について、いま独自に進められたアイデアもあったと思うので、それに対する質問でも良いし、検討委員会の持ち方でも良いし、今後答申を出すまでの、いかに市民や保護者から広く意見を募り議論できるかという、進め方について絞っていきたいと思っている。

あるいは、もっとこんなところを知りたいとか、ここの具体が知りたいということがあれば、ご意見をいただきたい。その意見をいただいた後、委員1、委員3からもう少し補足をお願いしようと思う。

委員4：説明会の新聞記事が出て、保護者が誰も来ていないことに小学校の保護者がちょっと慌てた。これでは良くないということで、小学校の校長先生と、うちだけでも学校のメールなどでお知らせしてもらえないかという話をしても、来た人数は2、3人で少なかった。

その2、3日後に、あるお母さんから、3年後くらいにA中とB中が統合するらしいと、もう決定事項のように流れている話を聞いた。最近ではC中がなくなってD中と統合することが決まっているらしいという話が流れていて、どうなってるのかとよく聞かれる。まだ決まっていない、これから考えるんだと話をしても誰も信じていない現状にちょっと驚いている。今は前段階で、検討委員会で話をしているということであって、決定ではないということをもまず周知してほしい。

また、現実には統合が進んだ場合の当事者は、今の幼稚園児とか保育園児だ。その保護者の意見を聞かないのかという話がちょっと出たので、きちんと話をしてもらった方がいいと思う。

それと、中学校と小学校とではやはり内容がすごく違うなというのは感じていて、小学校はそのままで良いとも思うし、中学校は先生が少ないことはありありと感じていて、先生が足りなくて、他からその時間だけ来てもらうような状況はなくしてほしい。

委員長：現状の周知の方法について、そこに関しては限界もあって、それぞれの地区で今ある機会、例えばPTAかもしれないし、あと学校運営協議会を活用して周知することは可能だろうか。

事務局：学校運営協議会は各校設置されているので、話はできると思う。

委員長：例えば校長先生から各学校に少し議論を持ち掛けていただいてというか、決定事項のように違って伝わってしまうというアンケートの逆効果というところもあるので、そのあたりはよろしくお願ひしたいところだ。

あとは将来の当事者に対しての周知というところで、機会の持ち方として、例えば答申を出すまでの間でもう少し説明の機会を直接持つ方がいいとか、何かそういったアイデアはあるだろうか。

委員5：妻からこども園の保護者にLINEで連絡をした。そもそも、反対の意見が多いというイメージを持っていたが、委員3が言われたような、参加しないイコール賛成、仕方ない、のような流れも確かにあるのかなと考えている。

そこで聞きたいのだが、例えば反対がすごく多かったら、適正規模とか適正配置は考えずに、統廃合しないのかというところ、そうではないですよね？

やはり財政的な面がついて回ると思うが、説明会に出た保護者から話を聞くと、逆にもっと財政面を前面に出してくれた方が、諦めがついたという人もいます。お金

がないから仕方ないという、子どもたちのためにお金を使うにあたって学校の統廃合が必要ではないかと言う保護者も一部ではあるがいた。

反対が多いと統廃合しないのかということと、財政に関して前面に出した方がよいのではないかということはどう考えているか。

事務局：反対が多いときは、そういったアンケート結果なりを検討委員会に報告をする。(統廃合は) まだ必要ない、玉野市は現状維持で行こうという内容の答申が出た場合には、それを反映した今後の計画を立てていく。その中で今の予算規模の中で何ができるかを考えていくことになると思う。

お金についてだが、経費の削減と、一定規模の学校の実現と、これが(適正規模化の目的の)二本柱なので、経費削減は今回の適正規模化の諮問にあたって大きな要因の一つであるということでは事実だ。

委員長：ただ反対が多いから反対というような答申ではなく、その反対意見の根拠が、教育的に考えたときに、誤解の有無や実態を広く考えたうえで、やはりこれは妥当ということになれば、時期尚早ということであったり、小規模なら小規模の良さをどう持っていくのか、人数の多い小学校をどうしていくのかといった、オルタナティブ(代替案)を検討していくことになると思う。

あくまでも教育的に見たときに何が望ましいかというところで、賛成なり反対なりの意見を吟味していくことになると思う。もし皆さんが、こういう先進事例が良いと聞いているということがあれば、ぜひ要求していただいて、そこを検討するということがあっても良いと思う。

委員長：時間も迫ってきたので、独自に各地区で説明をしていただいた委員1と委員3から、補足があれば情報提供をお願いしたい。

委員1：話ができた中学校の保護者は1人なので、全体的なことはまだ十分把握できていない。ただ現状から見ると、やはり中学校は早く統合をした方がよいのではないのかと私としては思う。中学校長会からもそういった意見が出ているし、いま玉野市で1年に生まれる子どもの数が200数十人と聞いているが、そういった現状から見ても中学校は2つくらいにしてもいいのかなと考えるようになった。

それから、PTAの会長を含めた方々と話をしたところでは、多くの人が統合してもいいのではないかと考えているというように聞いている。

ある小学校は非常に厳しい状況であって、何人以下になったらどうするかとか、そういったところも今後の議論になってくると思う。玉野市全体を見たときに特に厳しい状況で、保護者からは、人数が少ないと人間関係で行き詰まると本当に学校生活が苦しいとか、うまくいっているときはすごくいい環境かもしれないが、一度かみ合わなくなると、6年間で非常に辛いものになったという経験をした人もいたようだ。他にも、最終的には統合ももう考えざるを得ないかもしれないと言う人もいた。この辺りが今後いろいろ議論すべきことと思っている。

それから地域の方にしてみると、やはり昔の学校のイメージが強い。例えばスクールバスを使うとなった時に、バス停までは送り迎えがあって、地域と学校とのつながりが薄くならないような工夫があればと感じた。

統合が進む中で、(学校と)地域との間が何もなくなってしまうと、今まで農作業や工場見学など、いろいろ出来ていたことが、その地域からまったく無くなってし

まう。こういったところは今後の授業のあり方になると思うが、大きな学校ができたときに、その大きな学校の中でグループに分かれて、例えばこのチームは宇野、これは八浜、山田など、各地域との結びつきや歴史、文化、伝統、そういったものを、ちゃんと子どもたちが授業を通して経験でき、玉野市全体のことを考えていけるような子どもに育っていったらいいなと思う。

私の個人的な考えではあるが、この議論を進める中で、もう人口が減ってダメになるんだ、暗い未来しかない、ではなくて、どうすれば明るく皆が希望を持って、新しい方向に行けるか。明治から 150 年間、こういった学校を中心としたスタイルから今後どうしていくか、理想はいろいろあるが、人口減少社会の中で、新しい展開を考えざるを得ない時が来ていると、非常に強く感じている。

委員長：理想の教育もぜひ語っていただいて良いと思う。高等学校でも、出身の地域につながりを持ちながら教育をしているところもたくさんある。そういった発展的な教育のあり方も考えていけたらと思う。

委員 3：多くは先ほど報告した内容だ。自分事として考えていない人が多いとも聞くが、その中で、多くの学校が維持されると、それだけ修繕費、維持費がかかるので、命の危険が迫るような状況でないと修繕してもらえないという声も耳にした。保護者からも、人数に見合った学校の数を検討していくことが大切だということを言われた。

それから、昔は黒板の前に先生が立って授業をするという形だったが、今は協働学習としてタブレットを用いたり、4、5人のグループを作って授業を進めたりしている。ある程度の人数がいるからこそできて、定期的にグループが変わって、またそこでコミュニケーション能力が付いていくのだなと感じた。

心に残っているのは、みんな玉野の子なのだから、玉野の子がより良くなるために、大人がみんなで話し合っていければ良いのではないかとやってくれた人がいた。あそこの子だから、ここの子だからではなくて、みんな玉野の子として育っていく環境になればいいなと願っている。

委員長：次回から、どういう教育を目指すために、どういう環境が必要なのか、そこで規模の問題も絡んでくる中で、先ほど発言されたような玉野の子としてなどの意見を踏まえて、議論を詰めていけたらと思う。

今回は、検討委員会の進め方としては、各地区で運営協議会や PTA 等を使って意見を拾いつつ、周知する。決まっていないことと決まったこと、何を議論してもらいたいかなども、各地区でもう少し動いていただけると助かるところだ。

あるいは時機を見て、必要であれば、検討委員会から説明する機会を設けるといふことも、必要が出てきたら柔軟に考えたいと思うので、またご意見をいただきたい。

(アンケート (速報値) について)

事務局：本日の資料は「速報」だ。保護者用、地域用、教職員用、児童生徒用に加え、追加のアンケートも実施したが、自由記述の意見はまだ整理が完了しておらず、印刷すると 250 ページを超える膨大な量となることから、今回の会議資料からは割愛している。次回会議までに集計、分析し、改めて確定版として報告する。

(資料の概要を説明)

なお、適正規模化そのものに対する考え方を聞く設問（追加アンケートQ7）の結果は次のとおり。

	賛成 どちらかといえば賛成	反対・時期尚早 どちらかといえば反対	わからない
保護者	44.6%	20.7%	34.5%
地域（※）	31.2%	42.2%	24.5%
教職員（小）	50.6%	25.3%	23.6%
教職員（中）	70.9%	7.6%	17.7%

（※）地域には就学前園の保護者を含む

委員の皆様には、確定版の作成に向け「このような比較ができないか」「このような層のデータを抽出して分析できないか」といったご意見をいただきたい。

委員長：事務局から説明のあったように、まだ途中の段階なので、今からの分析の提案ということでお願いしたい。

まずは大きな学校も小さな学校も一緒になっていて、おそらく大規模校の回答が大きく反映されていると思われるので、そこは区別して出せると思うが、その他はどうか。

委員6：地域用のアンケートでは就学前園の保護者が一緒に集計されているが、分けることはできるか。また、就学前園の先生方はどこに入っているか。

事務局：就学前園の保護者は、紙で回答している人とウェブ上で回答している人がいる。ウェブ上で回答している人の属性は区別がつかないが、紙は園を通じて出てきているので、分けて集計することは可能だ。

園の先生方には同じ（地域用）アンケート用紙を渡しており、地域用の回答に含まれている。

委員7：地域説明会では、学校がなくなったらコミュニティが壊れてしまうとか、地域と触れ合う機会がなくなるというような意見もあった。それだけ地域の人子どもに対する思いが強い。ただ、学校がなくなっても、その地域に住む子どもはいるわけで、例えば地域の行事の中に、子どもたちが活躍できたり、参加できたりするような工夫をすることはできると思う。

和田地区では、校地の整備などは地域でもできるのではということで実施している。これからは学校の統廃合等の問題と地域のあり方は非常に関係してくるのではないかと思う。

委員長：コミュニティをどう捉えるかという、物理的なコミュニティも考えられるし、それを超えたネットワークでのコミュニティということも考えられる。それは今後、議論の観点に加えていけたらと思っている。地域での活動もまた、お願いしたいところだ。

委員5：先ほど話に出たが、地区によって人数が大きく違う。ある地区は人数がすごく少ないと思うが、反対が多いと聞いたことがあるので、分けてしまうとパーセンテージにすると凄いいことになると思う。学校で分けてアンケートの結果を出すことが本当にいいのかどうか、どう考えているか。

事務局：小学校区別の分析、あるいは小規模校としてのくくり、あるいは大きく東西南北に

分けて地域性を見るといった細かい分析は可能かと思う。検討材料としては、そういった細かい分析をしたうえで見ていきたいと考えている。

委員 8 : 速報版の結果を見ると、1 学年 2 学級以上が望ましいと捉えている人がたくさんいる中で、人数は（現状で）適切という方も多い。それは人数が多い学校がそう思っているのか、少ない学校の保護者がそう思っているのか知りたいと思う。

委員長 : 今がいいと思っている人がどういう教育を望んでいて、その適切な満足度がどこにあるのかなども知れるかもしれない。どのようなデータが出せそうか、やってみないと分からないところも少しあるが、学校の規模に応じた集計は最低限のラインというところで。

委員 4 : 地域用のアンケートで、紙で回答した就学前の保護者の結果はすぐ出せるか。その結果はちょっと知りたい。

事務局 : 可能なのでお示しする。

委員 3 : 委員 8 が言われた、何学級がよいかと、今の環境が適切かどうかというところで、地域説明会では、小規模校と少人数学級とを混同している人が多くいた印象があった。もしアンケートで聞けるのであれば、1 学級何人で学んでほしいと思うかという設問があれば、もし 20 人であれば 3 クラスがいいとか、そのあたりが聞けるといいと思う。

委員長 : それは追加のアンケートの要望ということか。

委員 3 : 今後意見をとっていくのであれば、そのあたりが聞けると良いと思う。

事務局 : 20 人が良いとなっても、なかなか 20 人にはできないが、調査をする場合は項目に入れたと思う。

委員 1 : 保育園とか幼稚園とか、まだどの園にも通っていない生まれたばかりの子を持つ人がどう考えているのか、そこまではたどり着けていないので、それがアンケートで十分意見が取れているのであればよいが、気になることなので、その辺りのフォローができればと思う。

委員長 : その辺り回答者の中から拾うことができるか。

事務局 : 園を通じて回答いただいた人は抽出できるが、それ以外となると、今のデータからは抽出できない。

委員長 : 少し先ほどの議論に戻ってしまうが、そういった方への説明や、意見の拾い方の機会をどう考えていくべきか、アンケートは取ればとるほど評価が煩雑になっていくことがある。

幼稚園、保育園の保護者は拾える、でもその人数が少なかった場合、あるいは通っていない家庭に対しては、今後どういうふうに考えていくか、事務局としていま原案はあるか。

事務局 : 現時点ではない。

委員 9 : 今の話であれば私も草の根的にできることはあるのかなと思う。子が通っている園を通じて保護者の意見を募ることなどはできると思う。

園に限らずだが、アンケートでは、なかなか回答率が上がらないのが現状と思うので、説明会や意見を募る場というのは、特にこれから学校に上がる当事者の世代

の意見を募る場というのは、答申の前に必要ではないかと思う。

私はまだ、子どもが学校に上がっていないので、実際の教育現場というのを知らない立場で、やはり複式は何となく良くないかなとか、クラス替えがあった方がいいかなとか、想像や自分の経験ベースではあるが、そんな考えではある。

ただ、これから小学校に上がる子の保護者は、理想はある程度自分の経験ベースであると思うが、現状がわからないという側面もあるので、実際に通われている人の意見を聞きたいというのもすごく大きいと思う。

なので、そういう意見交換ができる場を更に設けることができるのであれば、小学校の、中学校の保護者と一緒に意見交換がしたい、現状が知りたいというのが、これから小学校の保護者になる立場としては、要望としてはあるかなと思う。

委員 10：このアンケートについて言うと、事前の説明がないままにアンケートを取っているので、みなさん答えてはいるが、何を聞かれているか分からずに答えている人がほとんどだと思う。例えば人数は何人がいいですか、1クラス9人がいいですか、18人がいいですか、25人がいいですか、あるいは35人がいいですかと聞かれたときに、こういう理由で何人がいいと思うと回答した人が何人いるかだ。

私は、タクシーの運転手など、会う人会う人に個人的にアンケートしていたが、もっと子どもたちのことを考えてやればいいのかという意見がほとんどだった。全部大人の都合じゃないのかと言われる。やはり、玉野市を愛して玉野市の将来のために何かしようという考えをみんなが持つには、ちょっと時間が足りないのではないかと思う。

このアンケートの内容が、本当に理解したうえで答えてくれている内容なのか。もう少し時間を、あと1年くらい使って周知して、本当にみんなが理解してからアンケートをしたら、また違った結果が出るのかもしれない。ただ、その意見が出て、こういう理由でこういう意見ですという、そういうアンケートの内容になっているかなと思った。

委員長：そういう点では、今現在どう思っているかの傾向を問うということは、ある程度成功しているのではないかと思う。もちろんどこまで理解をして回答いただいたかというところでは、時間をかけてもう少し周知することは、確かに大事なことかとは思っている。

検討委員会の回数も、原案は示されているが、必要に応じて柔軟に考えていくことはできる。詳細は決まっていなくて、このことについてももう少し議論をと提案いただければ、各委員には長くお付き合いいただく可能性もあると思う。

具体的にどうやって、皆さんが理由をもって意見を答えるまでに進めていくかに関しては、今のところの議論でいくと、それぞれの地区の中で、あるいは学校園に関わっていない方はそのコミュニティの中で、意見を拾いつつ周知の場を持ち、そこで拾い上げたものを会議の場に持ってくるというような形が、いま強いのかなと思っている。その中で、どうしても必要であれば説明の場を持つということも可能かと思う。あるいは子どもを巻き込んでいくというのは、学校園の中で、あるいは家庭の中で、少しやっていただけたらいいのかなと、今の話を聞いて思うところだ。

実は私が少し気になったのが、子どもの無回答の率の高さだ。いいところも悪いところも無回答、そこまで多いのかと。自由記述が少ないのはわかるが、そこはど

うなのかなと思ったときに、答えようがなかったのか、ちょっと理由が分からないが、少し各学校、あるいは園、あるいは家庭の中で試みていただいて、それ以外に場が必要であるということであれば、またご提案いただければ、そのことも考えていきたいと思っている。

ということで、アンケートに関しては、先ほどの規模別や、幼稚園、保育園の保護者のあたりで出していくところを試みることは可能か。

事務局：今日いただいた意見を踏まえたものを次回お示ししたい。そのうえで、もっとこうというところをご指摘いただければ、また改めてデータをお示しできると思う。

委員2：まだアンケートを作るということか。

事務局：今あるアンケートについて、(クロス)集計したり、抽出したりして分析する、そういった項目をご提案いただければ、対応していきたいというものだ。

委員2：アンケートは、みんなやりたがらない部分があって、子どもの無回答があるのは全然やる気がない。大人でも忙しければ、適当でいいわみたいな感じで、真剣にやっていないと思う。その代わりにこういった検討委員会の場で協議をして、大変だと思うが中間報告をしてほしい。

ホームページに載っているとか、QRコードでアクセスできるといっても、やはりみなさん忙しい。若い人は特に忙しいので、そういった説明会にしてもYouTubeで見られるようにするなど、少しでも多く(情報に)触れられるようにしてほしい。

委員5：委員2の話にも関連するが、こうしている今も新しい団地ができて、新しい人が住もうとしている。その人たちが、小学校がすぐ近くにあるからという理由で家を建てているのであれば、そういった人たちや(今後家を建てる)若い人たちに、いままさに地鎮祭をしている家があったり、十数軒建つような宅地が造成されていたりするのでは、早急にもっと周知してくれたらと思う。

委員長：情報提供ですね。この検討委員会で協議するのは原理原則のレベルであって、具体的な計画案はまた事務局で作成することになる。

委員長：時間がなくなってきた。議事の「(3)玉野市の教育について」はどうするか。

事務局：玉野市がどういった教育をしていきたいかを説明し、それを踏まえて今後議論いただきたいと考えていた。また次回ご説明したい。

委員長：少し説明しておく、アンケートの追加のもそうだが、事務局はかねてより、子どもの教育環境を考えるということ、そして統廃合ありきではないことをずっと言っていた。議論を進めていくと、必ずどういう教育をするのかということに戻って行くと思う。

そこを踏まえて、小規模がいいと言うが、玉野市が実際どういう課題を抱えていて、どういう教育をしようと思っていて、それならばこういうお金の投資の仕方があっても良いとか、ここをやっても良いとか、我々が代替案や、教育を充実させていく方向で考えることができるようにということで、アンケートに関しては「何を教育としては望むのか」といった項目を追加させてもらった。前回十分に議論せずに入れてしまって申し訳ないと思う。

今回、玉野市の教育大綱を出してもらったのは、そうした狙いからだ。全部を説明してもらおうとすごく時間がかかるので、できれば事前に、簡単にでもお目通しいただいたうえで、次回ご参加いただけるとありがたい。

3 閉会

事務局：お配りしているアンケートの資料は、速報版で完全なものではないので、あくまで今回の会議資料ということで、ホームページ上での公開は控えたいと思う。完全なものを、きちんと示したいと考えているのでご理解いただきたい。